

## 平成25年度科研費（補助金分・基金分）の配分状況等について（概要）

### （I）科研費制度について

- 科学研究費助成事業（科研費）（以下「科研費」という）は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる独創的・先駆的な「学術研究（研究者の自由な発想に基づく研究）」を対象とする「競争的資金」です。

専門分野の近い複数の研究者による審査である「ピア・レビュー」という方式によって、科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会や(独)日本学術振興会科学研究費委員会の審査を経て、その配分が決定されています。

- 科研費は、研究テーマや研究の深まりに応じた応募が可能となるよう、研究期間や規模により、様々な応募区分（研究種目）を設定しています。このうち、研究者個人や複数の研究者のグループによる研究を対象とするものを特に「科学研究費」と呼んでいます。

- 「科学研究費」を構成する研究種目のうち、「基盤研究（C）」、「若手研究（B）」、「挑戦的萌芽研究」の新規採択課題については平成23年度から、「基盤研究（B）」、「若手研究（A）」の一部（研究費総額のうち500万円まで）については平成24年度から、研究の進展に合わせた研究費の使用が可能となる、学術研究助成基金助成金制度により助成しています。

- 従来の補助金制度によるものは「科研費（補助金分）」、学術研究助成基金助成金制度によるものは「科研費（基金分）」として一体的に取扱い、あわせて「科研費」と呼んでいます。

【表 1 科研費の研究種目】

| 研究種目等        | 研究種目の目的・内容   |
|--------------|--|
| <b>科学研究費</b> |  |
| 特別推進研究 ※     | 国際的に高い評価を得ている研究であって、格段に優れた研究成果をもたらす可能性のある研究<br>(期間3～5年、1課題5億円程度を目安とするが、上限、下限とも制限は設けない)   |
| 特定領域研究       | 我が国の学術研究分野の水準向上・強化につながる研究領域、地球規模での取り組みが必要な研究領域、社会的要請の特に強い研究領域を特定して機動的かつ効果的に研究の推進を図る<br>(期間3～6年、単年度当たりの目安1領域 2千万円～6億円程度)  |
| 新学術領域研究      | (研究領域提案型) 研究者又は研究者グループにより提案された、我が国の学術水準の向上・強化につながる新たな研究領域について、共同研究や研究人材の育成等の取り組みを通じて発展させる<br>(期間5年、単年度当たりの目安1領域 1千万円～3億円程度)  |
| 基盤研究 ※       | (S) 1人又は比較的少人数の研究者が行う独創的・先駆的な研究<br>(期間原則5年、1課題 5,000万円以上2億円程度まで)<br>(A) (B) (C) 1人又は複数の研究者が共同して行う独創的・先駆的な研究<br>(期間3～5年)<br>(応募総額によりA・B・Cに区分) (A) 2,000万円以上5,000万円以下<br>★ (B) 500万円以上2,000万円以下<br>☆ (C) 500万円以下 |
| 挑戦的萌芽研究 ※    | 独創的な発想に基づく、挑戦的で高い目標設定を掲げた芽生え期の研究<br>(期間1～3年、1課題 500万円以下) ☆   |
| 若手研究 ※       | (S) 42歳以下の研究者が1人で行う研究 (期間5年、概ね3,000万円以上1億円程度まで)<br>(A) (B) 39歳以下の研究者が1人で行う研究<br>(期間2～4年、応募総額によりA・Bに区分) ★ (A) 500万円以上3,000万円以下<br>☆ (B) 500万円以下   |
| 研究活動スタート支援 ※ | 研究機関に採用されたばかりの研究者や育児休業等から復帰する研究者等が1人で行う研究<br>(期間2年以内、単年度当たり150万円以下)  |
| 奨励研究 ※       | 教育・研究機関の職員、企業の職員又はこれら以外の者で科学研究を行っている者が1人で行う研究  |
| 特別研究促進費      | 緊急かつ重要な研究課題の助成   |
| 研究成果公開促進費    |  |
| 研究成果公开发表     | 学会等による学術的価値が高い研究成果の社会への公開や国際発信の助成  |
| 国際情報発信強化 ※   | 学協会等の学術団体等が学術の国際交流に資するため、更なる国際情報発信の強化を行う取組への助成   |
| 学術定期刊行物 ※    | 学会又は複数の学会の協力体制による団体等が、学術の国際交流に資するために定期的に刊行する学術誌の助成   |
| 学術図書 ※       | 個人又は研究者グループ等が、学術研究の成果を公開するために刊行する学術図書の助成   |
| データベース ※     | 個人又は研究者グループ等が作成するデータベースで、公開利用を目的とするものの助成   |
| 特別研究員奨励費 ※   | 日本学術振興会の特別研究員(外国人特別研究員を含む。)が行う研究の助成 (期間3年以内)   |

注1) ※印の研究種目の審査は、日本学術振興会が行っています。

注2) 平成20年度公募から、「特定領域研究」の「新規の研究領域」の新規募集は行っていません。

注3) 平成22年度公募から、「若手研究(S)」の新規募集は行っていません。

注4) 平成25年度公募から、「学術定期刊行物」の新規募集は行っていません。

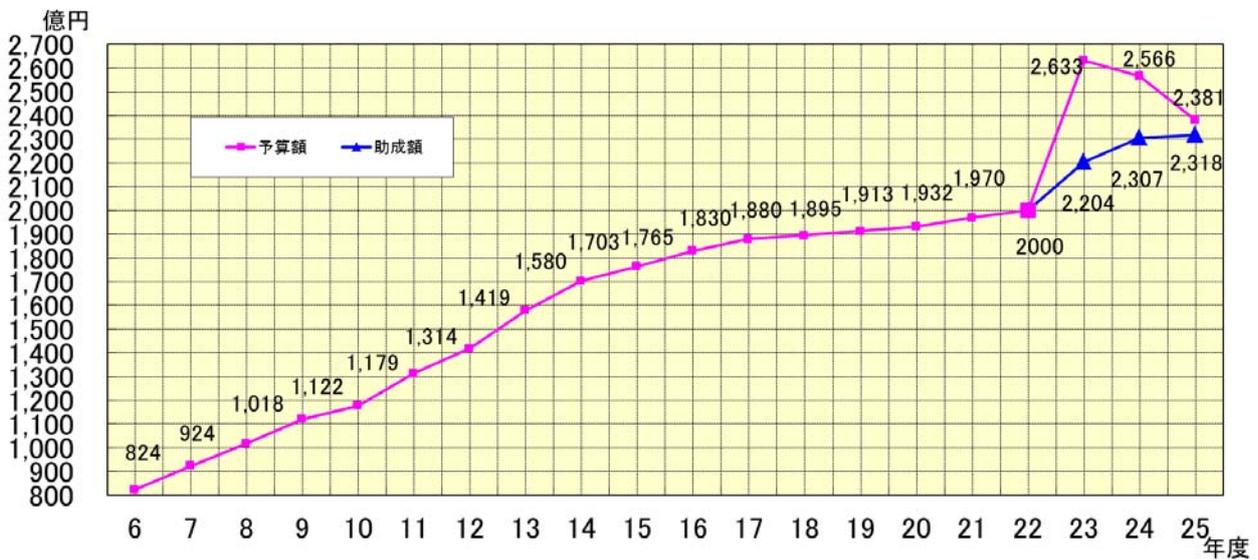
注5) ☆印の研究種目は、平成23年度から基金により実施しています。

注6) ★印の研究種目は、平成24年度から一部基金により実施しています。

## (Ⅱ) 平成25年度の科研費の予算の状況について

- 科研費の予算額は平成23年度に、科研費の一部基金化や一部研究種目の予算の拡充により、対前年度633億円増（約31.7%増）の2,633億円と大幅に拡充されました。なお、この中には、平成24年度以降の研究費として執行予定分（約429億円）が含まれており、当該年度の助成額は2,204億円でした。
- 平成25年度の予算額は、2,381億円で、対前年度185億減（約7.8%減）となりましたが、助成額ベースで見ると対前年度11億円増（約0.5%増）の2,318億円になっています（図1）。

【図1 科研費の予算額・助成額の推移】※平成22年度までは予算額と助成額は同額。



| 年度             | 6    | 7    | 8     | 9     | 10    | 11    | 12    | 13    | 14    | 15    | 16    | 17    | 18    | 19    | 20    | 21    | 22    | 23    | 24    | 25    |
|----------------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 予算額<br>(億円)    | 824  | 924  | 1,018 | 1,122 | 1,179 | 1,314 | 1,419 | 1,580 | 1,703 | 1,765 | 1,830 | 1,880 | 1,895 | 1,913 | 1,932 | 1,970 | 2,000 | 2,633 | 2,566 | 2,381 |
| 対前年度<br>伸び率(%) | 12.0 | 12.1 | 10.2  | 10.2  | 5.1   | 11.5  | 8.0   | 11.3  | 7.8   | 3.6   | 3.7   | 2.7   | 0.8   | 0.9   | 1.0   | 2.0   | 1.5   | 31.7  | -2.5  | -7.8  |
| 助成額<br>(億円)    | -    | -    | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | 2,204 | 2,307 | 2,318 |
| 対前年度<br>伸び率(%) | -    | -    | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | 4.7   | 0.5   |

### (Ⅲ) 科学研究費の平成25年度応募・採択の状況について(資料1~3)

#### <応募・採択状況>

- 科学研究費の平成25年度(4月現在)の新規応募件数は9万1,626件で、前年同期の8万6,874件より4,752件増加しています。
- 平成25年度(4月現在)の新規採択件数は2万5,151件で、前年同期の2万4,673件より478件増加しており、新規採択率は27.4%で、前年同期の28.4%よりやや低下しています。
- 平成25年度より「若手研究(B)」については、研究計画が新興・融合的で、複数の分野での審査を希望する場合に、審査希望分野として二つの細目を選択できるようにしましたが、複数細目を選択したのは「若手研究(B)」の応募者のうちの20.8%(4,219件)で、採択件数は1,252件(新規採択率29.7%)でした。
- 今後、「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「基盤研究(S)」、「研究成果公開促進費」の一部、及び「研究活動スタート支援」の研究課題(新規採択分)の配分結果が加わります。

#### <配分額>

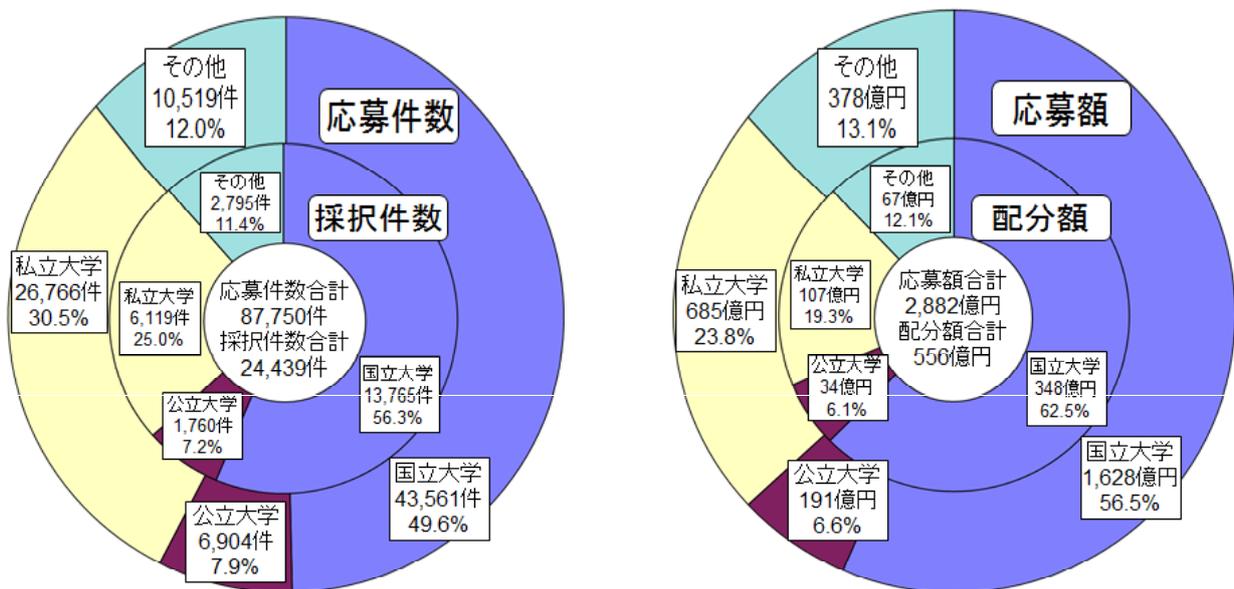
- 科学研究費の平成25年度(4月現在)の新規採択分の配分額(直接経費)は約560億円で、前年同期(約566億円)に比べ約6億円減少していますが、新規採択分と継続分を合わせた配分額(直接経費)は約1,570億円で、前年同期(約1,550億円)より約20億円増加しています。また、直接経費と間接経費を合わせた配分額は新規採択分で727億円、継続分と合わせると約2,039億円となっています。
- 1課題当たりの平均配分額について見ると、平成25年度(4月現在)の新規採択分は222万6千円で、前年同期(229万6千円)より7万円低くなっています。また、新規採択分と継続分を合わせた平均配分額は222万5千円で、前年同期(228万1千円)より5万6千円低くなっています。
- 平成23年度より基金化された3研究種目の新規採択分について見ると、1課題当たりの研究期間全体での平均配分額(直接経費)は、319万8千円となっており、昨年よりも12万9千円低くなっています。

#### (IV) 科学研究費に関する研究機関種別の状況について（資料4～5）

- 科学研究費の「応募件数・採択件数」及び「応募額・配分額」について、研究者が所属する研究機関種別の割合（新規）を見ると、昨年度と同様、国立大学、私立大学、その他、公立大学の順となっています（図2）。

この状況は、継続分を含めた場合も同様です。

【図2 研究者が所属する「研究機関」種別に見た応募・採択の状況（件数・額）】（新規）

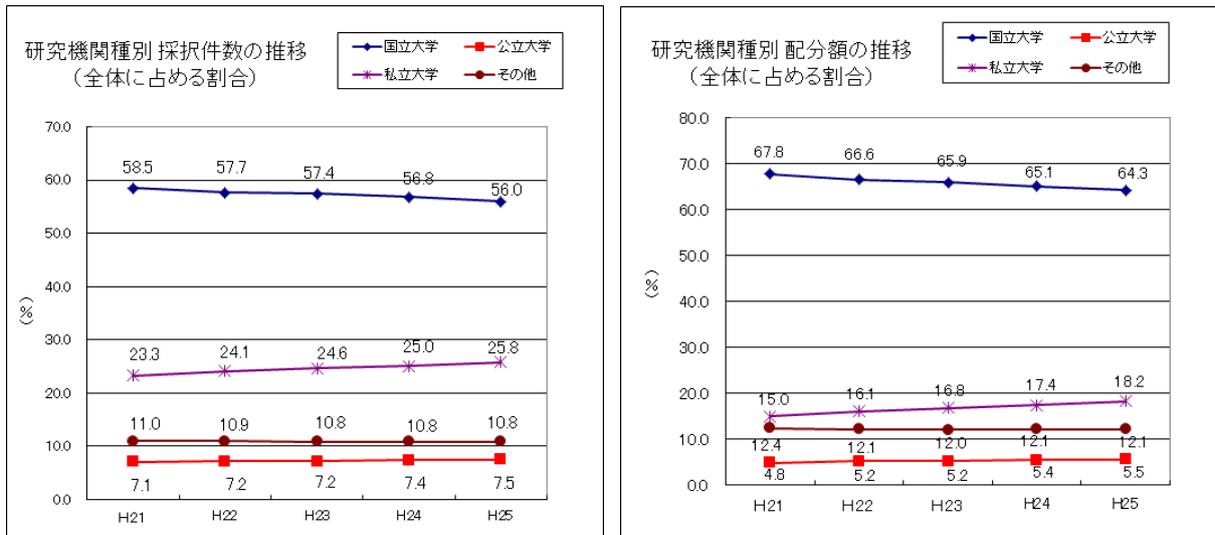


（注1）平成25年度科学研究費のうち、特定領域研究、新学術領域研究（研究領域提案型）（継続領域）、基盤研究（A、B、C）、挑戦的萌芽研究、若手研究（A、B）の研究課題（新規採択分）の当初配分について分類したものである。

（注2）四捨五入の関係上、合計と内訳の数値が一致しないことがある。

- 研究機関種別のシェアは固定的ではありません。採択件数（新規+継続）の推移について見ると、最近5年間で国立大学が占める割合は58.5%から56.0%に低下する一方、私立大学は23.3%から25.8%に上昇しています（図3左）。配分額の推移についても、ほぼ同様の傾向が見られます（図3右）。

【図3 研究者が所属する「研究機関」種別に見た配分状況の推移】（新規＋継続）



(注) 平成25年度科学研究費のうち、特別推進研究、特定領域研究、新学術領域研究（研究領域提案型）（継続領域）、基盤研究（S、A、B、C）、挑戦的萌芽研究、若手研究（S、A、B）及び研究活動スタート支援の研究課題（新規採択＋継続分）の当初配分について分類したものである。（特別推進研究、新学術領域研究（研究領域提案型）（新規領域）、基盤研究（S）、研究活動スタート支援の新規課題及び奨励研究を除く）

○ なお、大学教員数と応募件数との比率について見ると、国立大学及び公立大学は教員数に比べて応募件数が多く、科研費による研究に積極的に取り組む傾向が見られます（表2）。

【表2 大学教員数と科研費への応募件数】（新規＋継続）

| 区分   | 大学教員数<br>(①) | 応募件数<br>(②) | 比率<br>(②/①) |
|------|--------------|-------------|-------------|
| 国立大学 | 62,825       | 68,972      | 109.8%      |
| 公立大学 | 12,876       | 10,354      | 80.4%       |
| 私立大学 | 101,869      | 38,671      | 38.0%       |
| 計    | 177,570      | 117,997     | 66.5%       |

(注1) 平成25年度科学研究費のうち、特別推進研究、特定領域研究、新学術領域研究（研究領域提案型）（継続領域）、基盤研究（S、A、B、C）、挑戦的萌芽研究、若手研究（S、A、B）及び研究活動スタート支援の研究課題（新規採択＋継続分）の当初配分について分類したものである。（特別推進研究、新学術領域研究（研究領域提案型）（新規領域）、基盤研究（S）、研究活動スタート支援の新規課題及び奨励研究を除く）

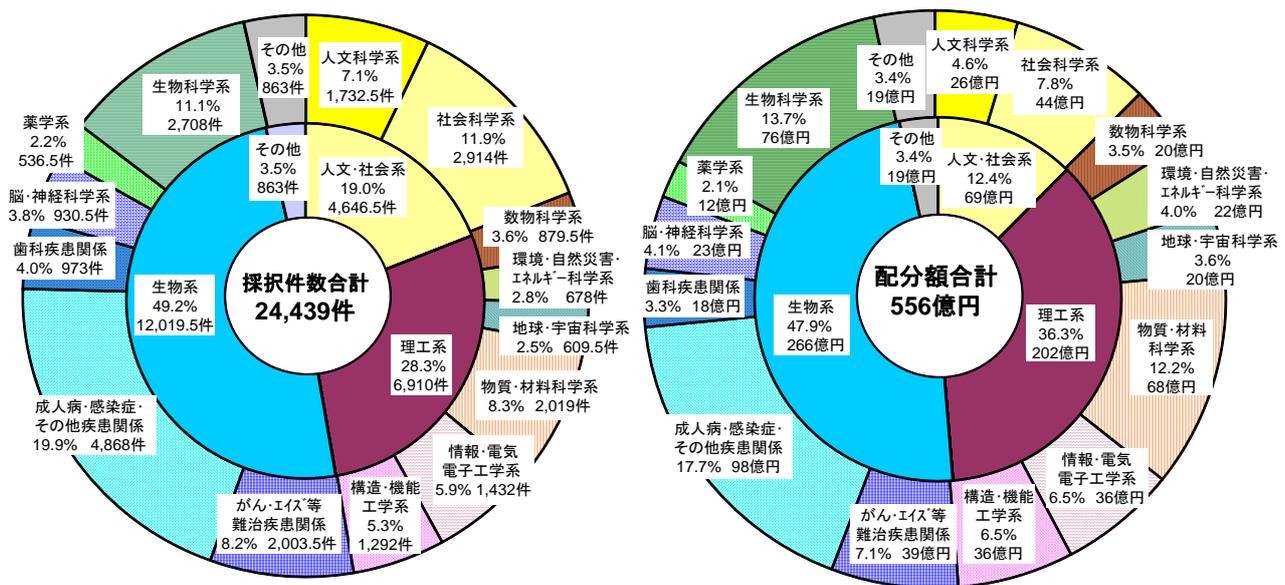
(注2) 「大学教員数」は「平成24年度学校基本調査」による。

## (V) 研究分野別に見た応募・配分状況等について (資料6)

### <分野別>

- 平成25年度(4月現在)の科学研究費の新規採択件数を分野別に見ると、全体の約半分(49.2%)を生物系が占めており、残りの約5分の3(28.3%)を理工系、約5分の2(19.0%)を人文・社会系が占めています(図4左)。この状況は、継続分を含めた場合もほぼ同様です。
- これに対し、新規採択分の分野別配分額は、生物系が47.9%、理工系が36.3%を占めているのに対し、人文・社会系が占める割合は12.4%であり、人文・社会系の場合、理工系や生物系に比べて、比較的少額の研究計画が多く採択されていることが伺えます(図4右)。この状況は、継続分を含めた場合もほぼ同様です。

【図4 分野別の採択件数・配分額】(新規)



(注1) 平成25年度科学研究費のうち、特定領域研究、新学術領域研究(研究領域提案型)(継続領域)、基盤研究(A、B、C)、挑戦的萌芽研究、若手研究(A、B)の研究課題(新規採択分)の当初配分について分類したものである。

(注2) 若手研究(B)の審査希望分野として二つの細目を選択した課題の分野については、按分によりカウントしている。

(注3) 四捨五入の関係上、合計と内訳の数値が一致しないことがある。